

スカウト活動に期待される役割

新藤 信夫

スカウト教育の目的 ボーイスカウトの組織を通じて、青少年がその自発活動により、自らの健康を築き、社会に奉仕できる人と人生に役立つ技能を体得し、かつ、誠実、勇気、自信及び国際愛と人道主義を把握し、実践できるように教育することをもって教育の目的とする。

**\*スカウト活動展開上 保護者や子供のニーズを把握しておりますか。**

**Q1 親は自分の子供にどのような能力を身に付けさせたいか。**

**A1 保護者は礼儀やマナーなどを身に付けさせたいと考えております。(礼儀・規律・公共マナー)**

- ・「ありがとう」、「ごめんなさい」が言える様にさせたい。
- ・近所の人にあいさつがきちんとできるようになること。
- ・目上や年上の人と話すとき丁寧な言葉が使えること。

**Q2 親はどんな人に子供を預け、社会性の教育してもらいたいと思っているか。**

**A2 保護者は公私ともに信頼できる隊長に子どもを預けたい(職業人・社会人としても)**

- ・スカウトに慕われ、保護者に信頼される指導者を目指し自己啓発をしている人。
- ・指導者がスカウト指導に対して、自身のミッションとパッションを理解実践している。
- ・隊長と保護者のコミュニケーションを充実させ、スカウトの成長や活動を理解させている。

**Q3 指導者の力量不足、活動低下、活動内容への不満が、不満要素の48%占めている。**

**A3 指導者の資質の向上のため、定型訓練や先輩指導者によるインサービスサポートを実施中。**

- ・スカウト活動への満足度は85%と高いが、BVSからBSへ所属隊が上がる程下がっている。
- ・指導者には、スペシャルセンス、マネジメントスキル、コモンセンスを持つ様にさせてます。
- ・BS隊指導者は班活動を活用して、スカウトの自主性を尊重したプログラム活動を研究する。

**Q4 スカウト活動を行う事で、社会で求められる力が育成されるのですか。**

**A4 子供の頃の自然体験活動は豊かな人生の基盤になります(大人になってからのやる気になる)**

- ・人生の生きがい、モラルや人間関係能力、などの資質、能力が高い傾向があります。
- ・社会人基礎力=前に踏み出す力(アクション)・考え抜く力(シンキング)・チームで働く力(チームワーク)が身に付くように努めています。

**Q5 親や子ども達のニーズにあった効果的なプログラムやイベントが展開されていますか。**

**A5 青少年の健全育成という目標に向けて、子供たちにとっても楽しいプログラムを展開。**

- ・保護者は子供の成長が実感でき、子供たちも楽しく将来のためになる魅力ある活動。
- ・班制度(異年齢集団)により、指導性、協調性、責任感や我慢をする事を身に付ける。
- ・進歩制度を活用した教育により、スカウトの向上心をあおり富士スカウトを育成する。
- ・NSJやWSJに参加することにより海外スカウトと交流して国際感覚を身に付ける。
- ・困難や多少の失敗があってもめげない心を養成し、自ら考え逞しく生きる力を養う。
- ・VS、RSは自分のミッションを考え実践して行動力や判断力に話す力を身に付ける。
- ・豊かな体験は子供の生活スキルを高めることができます。
  - ・コミュニケーションスキル
  - ・家事、暮らしのスキル
  - ・課題解決スキル
  - ・礼儀、規律、公共マナースキル
  - ・健康管理スキル
  - ・アウトドアスキル
- ・スカウト活動では何をする時も一人一人に役割が与えられ、スカウト達はそれを「行う事によって学びます」・・・特に責任感や協調性を学びます。